

小学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

平成12年度

教育研究員名簿

低・ 中学 年分 科会	小西目	金東北	井京黒	本保不豊	町谷動	小島西	☆	吉土伊橋	野田藤本	正比呂	人子聡	2	年	
	荒板葛葛品		川橋飾飾	第九志柴	峡第又田	小四小	★	田今風細	島井澤川	千泉律明	鶴子子子	2	年	
	波江三	戸	川谷川鷹	第志柴原小幡篠高	第又田山代第山	小五小	○	岡長水木	本井澤川谷村	逸賢和晶由季	二惠子	3	年	
													3	年
													3	年
													3	年
													3	年
													3	年
													4	年
													4	年

高学 年A 分科 会	墨江中豊多	港	田東野島摩	麻押東大要多	布上川和	小川第二	☆	松時神中井高	澤田田島波澤	豊信亮玲善	子隆子子子幸	5	年
							◎					5	年
							★					5	年
												5	年
												5	年

高学 年B 分科 会	世練立町西あ新	田馬川田京野島	駒田第南柳五新	沢柄第九第一沢日島	小第二小一小一小一小	☆	川小小石川山山	辺池山井原崎本	章智夏由尚	絵彦美薰子史新	6	年	
							☆					6	年
												6	年
												6	年
												6	年
												6	年

◎ 全体世話人 ○ 全体副世話人 ☆ 分科会世話人 ★ 分科会副世話人

担当 東京都立教育研究所統括指導主事 清水 朋子

目 次

I 全体研究主題及び基本的な考え方	
1 研究主題設定の理由	2
2 研究主題に対する基本的な考え方	
(1) 「言葉を大切にする」とは	3
(2) 「進んで伝え合う」とは	4
II 研究の概要	
1 研究の構想	5
2 各分科会の研究の概要	6
3 話し合いの基礎・基本技能系統表	8
III 各分科会の実践	
○ 低・中学年分科会	
第3学年「遊び大作戦—楽しい遊びのルールを考えよう—」	10
第4学年「4の2ネットワーク新聞を作ろう」	13
○ 高学年A分科会	
第5学年「考えよう！ わたしたちの町のバリアフリー」	16
○ 高学年B分科会	
第6学年「五日市からとびだして、世界を広げよう」	20
IV 研究の成果と課題	24

〈要 約〉

国語科においては心豊かに表現し理解するために、言語能力を高めていくこととともに、児童の思いや願いを大切にし、自ら学習しようとする意欲を高め、児童が主体的に取り組めるような学習を創造していくことが求められている。

本研究は、言葉を大切にして進んで伝え合う力を培うために、話し合う活動を中心に進めることとした。話題・題材の選択や話し合う活動、さらに評価の方法等を工夫することにより、これからの情報化社会にあって、主体的に生きる力をはぐくんでいくことをめざしたものである。

I 全体研究主題及び基本的な考え方

全体研究主題 言葉を大切にし、進んで伝え合う子を育てる指導の工夫
——話し合う学習活動を通して——

1 研究主題設定の理由

情報化、国際化の時代と言われる今日では、パソコン、ファクス、携帯電話等様々なコミュニケーションツールが発達し、遠く離れた地域、国々の人々とも手軽に情報のやりとりができるようになった。また、それらは小学生でも手軽に扱えるようになっている。しかし、多くの情報や機器があふれる反面、核家族化、少子化が進むなかで、会話を通したコミュニケーションが不足し、人間関係がうまく築けないために、いじめや引きこもりを引き起こす児童たちが増えていることも事実である。

このような時代を生き抜いていく児童にとっては、自分に必要な情報、正しい情報を選別する力が必要になってくるであろう。また、国際化の時代にあっては自分の考えや情報を相手に正確に伝えていくとともに、相手の思いや考えを受け止める力も重要になってくるであろう。

平成10年12月に告示された新学習指導要領では「ゆとりの中で自ら学び自ら考える力」等、「生きる力」の育成を基本としている。それを受けて、国語科では、「言語の教育としての立場を重視し」互いの立場や考えを尊重しながら、言葉で「伝え合う」能力の育成を提唱している。これは、情報化・国際化の時代にあって求められる重要な能力であろう。

新学習指導要領は平成14年度から完全実施となるが、国語においては漢字指導に関する部分を除き、今年度の移行期間からの実施が認められており、各学校でその内容をふまえた指導が積極的になされることが期待されている。そこで、「伝え合う」という観点から学校の現状をみると、児童への意識調査を通して、「話を聞いてはいるようだが内容を正しく理解していない」「会話を通して本音を表に出すことに慣れていない」「友人とのつながりを求めているがコミュニケーションがうまくいかない」といった児童の姿が浮かび上がってくる。また学級会等の話し合いでは「話し合うのは好き」「話し合うと自分の考えが変わった」「問題が解決されてよかった」という声もあれば、一方では、「大勢の前で意見を言うのは恥ずかしい」「笑われそうだから意見は言わない」等の言葉も聞かれる。

私たちは、児童たちに、言葉に込められた自分や相手の思いを自覚し、言葉を大切に使うてほしいと願っている。また、これからの時代をたくましく生きていくために、互いの思いや考えを尊重し合いながら伝え合う力を伸ばし、望ましい人間関係を作っていくてほしいと考えている。

このようなことから、本研究主題を上記のように設定し、「伝え合う」場面がもっともよく現れる、「話し合う」活動に視点を当てて研究を進めることとした。

2 研究主題に対する基本的な考え方

研究主題の「言葉を大切にする」及び「進んで伝え合う」について、本研究では次のようにとらえた。

(1) 「言葉を大切にする」とは

① 相手や場、目的や意図に従って、適切に言葉を選んで話すこと。
* 1

② 言葉に込められた相手の意図や思いを考えながら聞くこと。
* 2

③ 言葉に触れ、親しみ、日常の言語活動に生かしていくこと。
* 3 * 4

以上のとらえ方は、次のような基本的な考え方を基にしている。

* 1 「適切に言葉を選ぶ」とは

- 言葉遣いに気を付けること
- 自分の思いや考えに合う言葉を選ぶこと
- 相手の立場を考え、言葉を正しく使うこと
- 相手や目的を意識して、伝えたい内容にふさわしい言葉を選ぶこと

* 2 「考えながら聞く」とは

- 相手の言葉に関心をもって聞くこと
- 相手の話を自分なりにイメージしながら聞くこと
- 聞いたことを基に自分の考えや感想をもつこと
- 話の順序や中心に気を付けて聞き、分からないことは聞き返すこと

* 3 「言葉に触れ、親しむ」とは

- 言葉の意味や使い方に関心をもつこと
- 相手の言葉の使い方のよさに気付くこと
- 自分の言葉の使い方を振り返ること

* 4 「日常に生かす」とは

- 意味や使い方を知った新しい言葉を進んで使おうとすること
- 身に付けた言葉を使い、相手や場に応じて話したり、よりよい人間関係を築いたりしていくこと

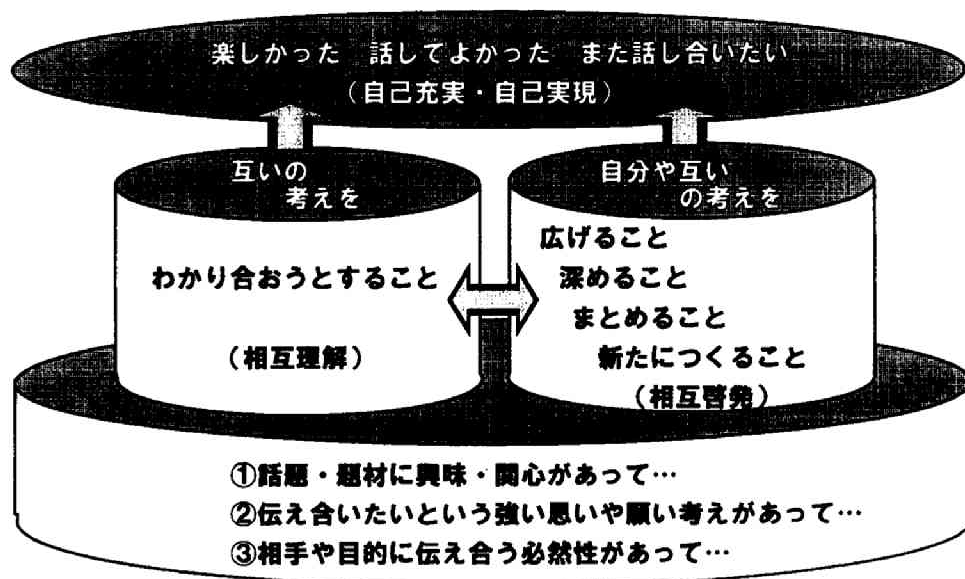
これらのとらえ方は、具体的な「期待される児童の姿」であるともいえる。これらを基に各分科会で「目指す児童像」を設定し、より具体的に研究主題に迫るようにした。

(2) 「進んで伝え合う」のとらえ方とは

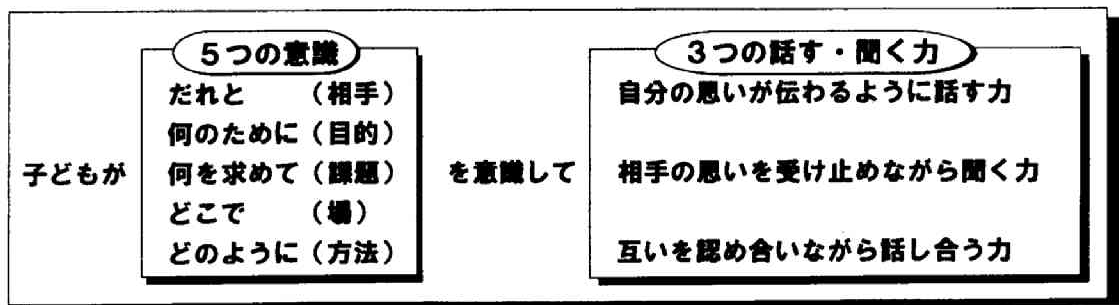
① 進んで伝え合う児童の姿

児童が進んで伝え合うためには、話題に興味があったり「話し合いたい」という強い思いや願いがあったり、「話し合わなければならない」という児童にとっての強い必然性があったりすることが前提になる。

また、相手を尊重し、自ら高めようとする意識も大切である。その上で、互いの考えを知り合ったり（相互理解）互いの考えを高め合ったり（相互啓発）し、また、それらの伝え合いを通して、自己の欲求に対する満足（自己充実、自己実現）が得られる児童を「進んで伝え合う児童の姿」ととらえた。



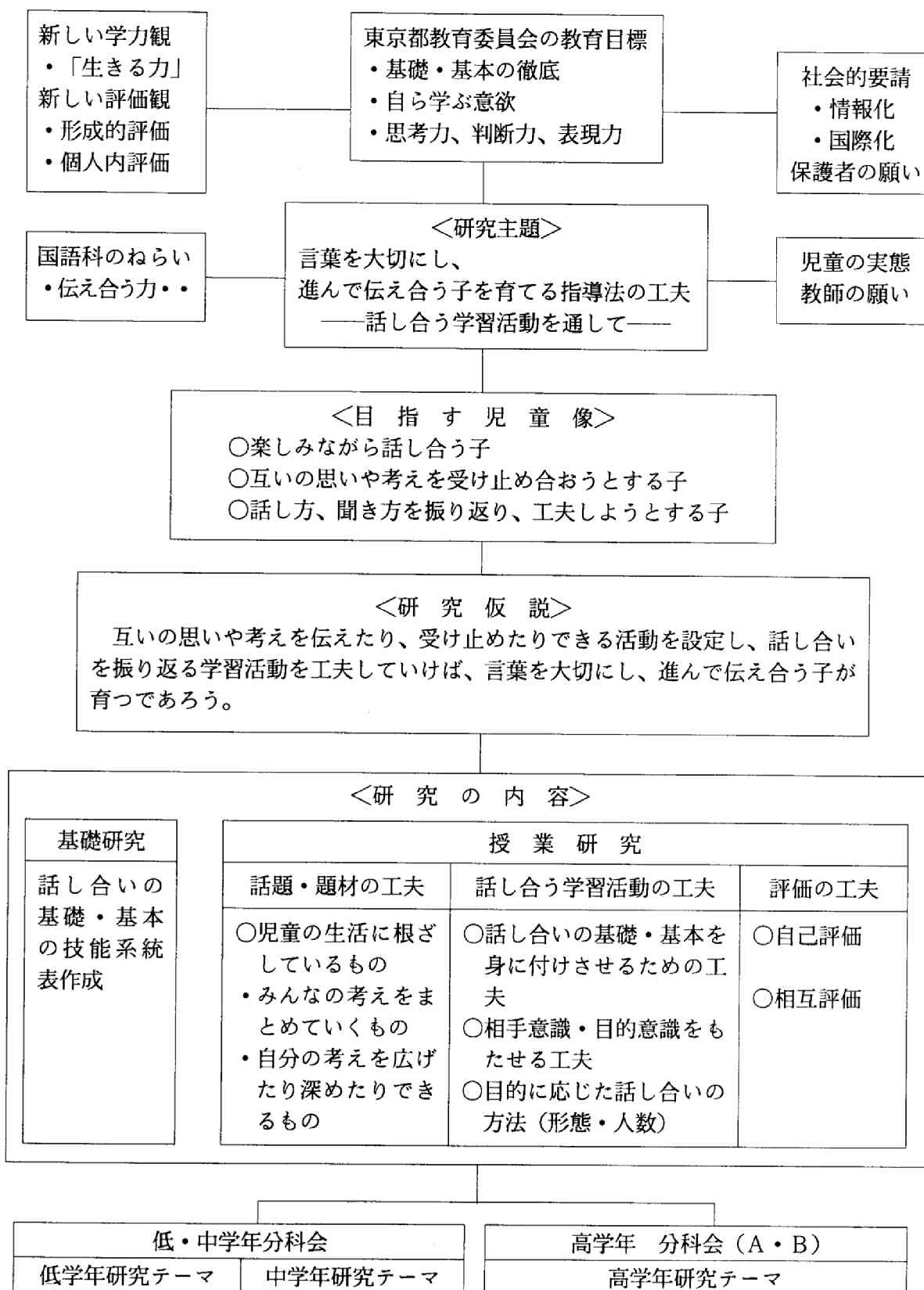
② 「伝え合う力」のとらえ方



児童が進んで伝え合おうとしているときに、相手・目的・課題・場・方法の5つを意識し、話し手の立場になったときには、自分の思いや考えが伝わるように適切な言葉を選んで話したり、聞き手の立場になったときには、相手の言葉から思いや考えを探りながら聞いたりする力が必要である。また、常に話し合いの仕方に気を付け、互いの話し合いの仕方を振り返ったり、話し合うことで相手や自分のよさに気付いたり、話し合って得られたことを大切にしたりすることができる力も重要である。本研究では、5つの意識に基づいた3つの話す・聞く力を「伝え合う力」ととらえた。

II 研究の概要

1 研究の構想



2 各分科会の研究の概要

		研究主題	目指す児童像	研究仮説
低 学 年 分 科 会	低 学 年	言葉に親しみをもち、 楽しみながら伝え合う 学習活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○話すことや聞くことに喜び のもてる子 ○相手を意識しながら、話し たり聞いたりする子 ○話し方、聞き方を振り返り、 よさに気付く子 	○話し方、聞き方を振り返り、 一人一人が「話してよかつた」「聞いてよかつた」と思える学習活動を工夫すれば、言葉に親しみをもち、楽しみながら話し合う子が育つであろう
	中 学 年	適切な言葉を選び、 楽しみながら伝え合う 学習活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら話し合う子 ○様々な考えを認め合い、自 分の考えを広げる子 ○話し方、聞き方を振り返り、 次の話し合いに進んで生か そうとする子 	○互いのよさを認め合い、「分 かってもらってよかつた」 「また話し合いたい」という 気持ちを引き出すような学 習活動を工夫すれば、適切 な言葉を選び、楽しみなが ら話し合う子が育つであろ う。
	高 学 年	適切な言葉を使い、 目的に応じて 計画的に話し合う 学習活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合うことのよさに気付 き、話し合いを楽しむ子 ○見通しをもって話し合い、 よりよい考えを求める子 ○話し合いの目的に沿って振 り返り、より効果的な話し 方、聞き方を工夫する子 	○目的意識をもった学習活動 の中に必然性のある話し合 い活動を繰り返し位置付け、 見通しをもって話し合う技 能と態度が身に付く指導を 積み重ねていけば、適切 な言葉を使い目的に応じて計 画的に話し合う子が育つで あろう。

基本的な考え方	研究主題に迫るための手だての例
<p>〈言葉に親しみをもつ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進んで言葉で伝えようとする。 ○新しい言葉に興味をもち、進んで使おうとする。 ○相手に応じて、ふさわしい言葉があることを知り、使おうとする。 ○話の内容や話し方に興味をもち、聞こうとする。 <p>〈楽しみながら伝え合う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話題に沿って話し合い、互いを分かり合おうとする。 ○自分の考えを振り返り、はっきりしたり、変わったりしたことに気付く。 ○話し合うことによって、互いのよさに気付く。 	<p>①話題・題材の工夫</p> <p>視点…児童にとって身近な話題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの考えをまとめていくもの…遊びやお楽しみ会の話し合い・お話し作り・お祭りの相談 ・考えを広げたり深めたりすることができるもの…発見したこと・できるようになったこと・読書などの感想交流・夏休みの体験・遊び方紹介・作り方紹介 <p>②話し合う学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの基礎・基本を身に付けさせるための工夫…話型習得のための言葉遊び ・相手意識・目的意識をもたせる工夫…問答（なぞなぞ・教え合い・質問） ・目的に応じた話し合いの方法…対話・フリートーキング <p>③評価の工夫</p> <p>【自己評価】個に応じためあての設定・話型の手引きに沿った評価項目・絵を用いた評価 (☺☹)</p> <p>【相互評価】よかったことやアドバイスなどの伝え合い・一言感想カード</p> <p>【自己・相互評価】めあての掲示・振り返りカード・テープによる振り返り</p>
<p>〈適切な言葉を選ぶ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい言葉の意味や使い方を知り、進んで使う。 ○相手や目的に応じて、ふさわしい言葉を選び、話す。 ○相手の思いや考えを受け止めようとする。 <p>〈楽しみながら伝え合う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分と相手の考えの相違点や共通点を考えながら話し合い、互いを分かり合おうとする。 ○自分の考えを振り返り、深まったり広がったりしたことに気付く。 ○話し合うことによって、互いのよさを認め合う。 	<p>①話題・題材の工夫</p> <p>視点…自分の体験を基に考えられる話題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの考えをまとめていくもの…編集会議・群読台本作り・物語作り ・考えを広げたり深めたりすることができるもの…ブックトーク・見学の計画・賛成と反対に分かれて <p>②話し合う学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの基礎・基本を身に付けさせるための工夫…視聴覚機器を活用した話し合いの振り返り・話し合いの手引きの活用 ・相手意識・目的意識をもたせる工夫…インタビュー・交渉・相談 ・目的に応じた話し合いの方法…小グループでの話し合い・フリートーキング <p>③評価の工夫</p> <p>【自己評価】自分のめあての設定・次時のめあてにつながる評価・話し合いボード</p> <p>【相互評価】よかったことやアドバイスなどの伝え合い・相互評価カード</p> <p>【自己・相互評価】振り返りカード・評価基準の明確化・話し合いの価値を見取る自由記述・ビデオテープや録音テープによる振り返り</p>
<p>〈適切な言葉を使う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えに合う言葉で話す。 ○相手や目的・場に応じた言葉で話す。 ○相手の反応を見て分かりやすい言葉で言い換えて話す。 ○話し合いを円滑に進めるための言葉を工夫して話す。 <p>〈目的に応じて計画的に話し合う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話題・題材を見付ける。 ○目的意識を明確にもつ。 ○自分の意図や立場に応じて、話す内容を明確にもつ。 ○話し合いの進め方が分かる。 ○話し合いの目的に沿って振り返る。 	<p>①話題・題材の工夫</p> <p>視点…適時性があり、話し合う価値のある話題題材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの考えをまとめていくもの…学校行事のスローガン・卒業に関係するもの ・考えを広げたり深めたりすることができるもの…夏休みの体験・将来のこと・環境問題 <p>②話し合う学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの基礎・基本を身に付けさせるための工夫…ロールプレイを活用した話し合いを進めるための指導 ・相手意識・目的意識をもたせる工夫…目的意識を明確にもてる単元構成 ・目的に応じた話し合いの方法…フリートーキング・パネルディスカッション <p>③評価の工夫</p> <p>【自己評価】振り返りカード（めあての焦点化・次の活動への意欲づけ）支援計画（個のめあてに沿った内容）</p> <p>【相互評価】振り返りカード（話し言葉による伝え合いと受容的態度）支援計画（全体や各グループへのアドバイス）</p>

3 話し合いの基礎・基本技能系統表

		低 学 年	中 学 年
話し合いの基礎・基本	受け止めながら聞く力	①顔を見てうなずいたりあいづちをうったりして聞く ②途中で口出ししないで聞く ③分からないことを尋ねる ④(←②)最後まで聞く ⑤順序を意識しながら大事なことを落とさないように聞く ⑥(←①)相手の話を引き出すような言葉かけをする ⑦相手の話を受け止めるようにして聞く	(1)話の中心に気を付けて聞く (2)話の受け止め方が正しいかどうか確かめながら聞く (3)メモを取りながら聞く
	認め合いながら話し合う力	⑧話題に沿って話し合う ⑨自分の知識や経験に照らし合わせて話し合う	(4)いろいろな人から意見が出るように声をかける (5)自分の考えと比べながら聞く (6)相手や目的を意識しながら話し合う (7)(←⑤)互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞く (8)(←⑦)いろいろな考えを大まかに分類する (9)相手の考えのよさを認め自分の考えに取り入れる (10)時間を意識して話し合う
	伝わるように話す力	⑩顔を見ながら話す ⑪一人でずっと話さない ⑫(←⑩)聞き手に応じて繰り返し話す ⑬尋ねられたら答える ⑭(←⑫)相手の表情や反応を見ながら話す ⑮最後まではっきり話す ⑯順序を表す言葉を使って話す ⑰大事なことをはっきりさせてから話す ⑱(←⑰)順序よく整理して話す	(11)(←⑩)話の中心をはっきり決めて話す (12)メモをもとに話す (13)(←⑬)活動の順序、時間の順序、場面の順序、移り変わりの順序など考えて話す (14)(←⑭)話の要点が伝わるように話す (15)相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話す
言語活動例	『仲良く話そう』(自己紹介) ①②⑦⑩ 『絵を見てお話』(説明) ②⑦⑩ 『先生あのね』(見聞きしたことを知らせる) ③④⑩⑫⑬ 『ふんふん それで』(あいづち)①③⑦⑫⑬ 『糸電話で伝えよう』(伝える) ④⑤⑭⑮⑯⑰ 『お店屋さんごっこ』(応対)③④⑫⑬⑭ 『話したいな夏の思い出』(報告) ⑥⑧⑨⑱⑲ 『作り方紹介』(紹介) ⑤⑭⑮⑱	『さいころトークをしよう』(会話) ⑥⑧⑭⑮(1)(11) 『絵かきゲーム』(説明) (1)(2)(11)(13) 『遊び大作戦』(検討) ⑤⑬(1)(6)(11) 『お話リレー』(話を続けて作る)(1)(4)(5)(11) 『私は誰でしょう』(問答) ③⑬(2)(6) 『劇を作ろう』(劇作り) (4)(6)(9)(13) 『インタビューしよう』(インタビュー) (2)(3)(12)(14)(15) 『こんなときにどうする』(ロールプレイ) (11)(13)(15) 『子ども電話相談室』(ロールプレイ) (2)(6)(9)(10)(14)(15) 『賛成と反対に分かれて話し合おう』(ディベート) (7)(8)(10)(14) 『ボランティア体験報告会をしよう』(報告) (4)(6)(13)(15) 『自分たちの特選詩集を作ろう』(検討) (4)(5)(6)(7)(9)	

高 学 年

- ◇(←(1))話し手の意図を考えながら聞く
- (2)話の受け止め方が正しいかどうか確かめながら聞く
- (3)メモを取りながら聞く
- ◇話の組立てや言葉遣いに注意しながら聞く

- (4)いろいろな人から意見が出るように声をかける
- (6)相手や目的を意識しながら話し合う
- ◇(←(7))自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う
- ◇(←(8))意見を整理したり、新たな問題を見つけ出しながら話し合う
- (9)相手の考えのよさを認め自分の考えに取り入れる
- (10)時間を意識して話し合う
- ◇見通しを持って話し合う
- ◇友好的な態度で話し合う

- ◇(←(4))事実と感想、意見の組立てを工夫したり、資料や例示を活用して話す
- ◇(←(14))考えたことや自分の意図が分かるように話す
- (12)メモをもとに話す
- ◇(←(15))目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す

- 『意見交換会をしよう』(話し合い)
(2)(3)(12)◇◇◇◇
- 『6年生を送る会』(話し合い) (4)◇◇◇
- 『運動会のスローガンを話し合おう』
(話し合い) (4)◇◇◇
- 『5年生にバトンを渡す会を開こう』
(フリートーキング) (6)(9)◇◇◇◇
- 『対談 ○○町の昔』(対談) (6)◇◇◇◇
- 『夏休みの体験を語り合おう』
(フリートーキング) (12)◇◇◇◇
- 『パネルディスカッションの方法を知ろう』
～地球環境の問題を考えながら～
(パネルディスカッション) (9)◇◇◇◇
- 『コマーシャル討論会』(討論)
(10)◇◇◇◇
- 『クラス討論会』(ディベート)(10)◇◇◇◇
- 『今江祥智さんの作品について語り合おう』
(話し合い) (9)◇◇◇◇

『話し合いの基礎・基本技能系統表』について

- 1、この系統表は、学習指導要領解説国語編（平成11年5月）をよりどころとして作成した。
- 2、話し合う活動における基礎・基本を明確にし、観点別に系統的な配列を試みた。
- 3、螺旋的・反復的に繰り返して学習することを基本とするために2学年ごとにまとめた。
- 4、低学年の事項は①②…で、中学年は(1)(2)…で、高学年は◇◇…で示した。
- 5、矢印(←)で系統的・段階的な高まりを示した。
- 6、言語活動例に単元名、話し合う活動の内容または形態、その単元で身に付く基礎・基本を示した。(基礎・基本の番号は上の表の番号に一致する。)

言語活動例の実際

【低学年】

ふんふん それで

二人組で対話を行う。聞いている方は必ず「うん、うん」「それから？」などとあいづちをうつようにする。わからないときには質問をする。ゲームなので必ずあいづちをうつことをルールにする。

お店やさんごっこ

魚屋さんとお客さんなどの役割を決めて、ロールプレイの手法で応答の練習を行う。どんなやりとりが予想されるか児童に考えさせる。

【中学年】

さいころトークをしよう

大きなサイコロの面に1つずつ違う話題（「友達」「遊び」「好きな食べ物」「宝物」など）を書き、そのサイコロを振って出た面の話題で会話をする。話題からそれないように聞き手も質問をする。

子ども電話相談室

相談者、相談員（解説者）、司会、まとめ役に係を分担し、一人一人の日常の悩み事を解決するための話し合いをする。電話なので顔は見えない。メモを取り、大事なことを落とさないように聞く。

【高学年】

今江祥智さんの作品について語り合おう

今江祥智の作品「トラよ、走れ!」「野の馬」の続き話を考え、異なる展開を予想した友達と語り合う。自分の立場や根拠をはっきりさせながら話し合わせる。

クラス討論会

「思いを伝えるなら電話がいいか、手紙がいいか」などの話題について、自分の考えをはっきりさせた上で、電話派・手紙派の2グループに分かれて討論会をする。理由を明らかにして話すことや相手の意見を尊重する態度などを指導する。

III 各分科会の実践

低・中学年分科会	研究主題	低学年 言葉に親しみを持ち、楽しみながら伝え合う学習活動の工夫
		中学年 適切な言葉を選び、楽しみながら伝え合う学習活動の工夫

第3学年

1 単元名 遊び大作戦 ——楽しい遊びのルールを考えよう—— [基礎・基本(1)(6)(11)]

2 研究主題と単元とのかかわり

児童は、これまでの生活の中で、ルールを工夫し楽しく遊んだ経験をもっている。そこで、これらを生かし遊びのルールを話題として取り上げ、楽しく話し合い、話し合った内容が生活に生きるような学習活動を考えることにした。

自分の考えたルールを伝えるには、自分の考えをもち、相手にわかる言葉を選ぼうとする過程がある。また、相手の考えを理解するには賛同の言葉を返したり、分からないことを尋ねたりする過程がある。

本単元は、話し合う目的を意識して、以上のような言語活動を繰り返し行うことで、楽しみながら伝え合う力を付けるための単元として設定した。

3 学習指導計画の概要（本時4／7）

	主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎評価	継続学習
一次 ②	・遊びのルールの工夫の手順を見通し、話し合いのめあてをつかむ。	○話し合いのめあてをもつこと。 ●ビデオテープを活用する。	◎学習のめあてをカードに書いたか。	—— 一分間スピーチ・朝の対話タイム ——
二次 ③	・自分の考えた変身遊びのルールをカードにまとめる。 ・3～4人のグループで変身遊びについての話し合い、グループの変身遊びを決定する。	●自分の考えをまとめるためのカードを活用する。 ○互いの考えの相違点や共通点を考えながら、話し合うこと。 ●振り返りカードを活用し、学習のめあてにつなげる。	◎互いに考えの相違点や共通点を考えながら話し合ったか。 ◎話し合っよかったことは何か。 ◎振り返りカードに記入し、次時に生かそうとしているか。	
三次 ②	・グループごとに決定した変身遊びを学級全体に発表する。	○相手の考えを受け止め分からないことは尋ねること。	◎相手によく分かるように工夫して発表しているか。 ◎互いの考えを理解しようとしているか	
	・お楽しみ会で、計画的に変身遊びを行い、自分たちの考えた遊びを学級全体で楽しむ。(学級活動)			

(4) 本時の学習

- ① 目標・めあてをもち、相手によく伝わるような言葉や話し方に気をつけて、楽しく話し合おうとする。
- ・互いの考えた遊びの相違点や共通点を考えながら、話を最後まで聞く。また、質問や確認をしながら話し合う。
- ② 展開

前時の学習内容		
<p>・遊びの工夫について、自分なりの考えを「へんしんカード」に書く。</p>		
主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎評価
<p>1. 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p>	<p>●学習の見通しや話し合いのめあてを書いた掲示物を活用する。 ○前時までの学習から、話し合いのめあてをもつこと。</p>	<p>◎話し合いのめあてをもったか。 ◎前時までの学習を生かした話し合いのめあてをもったか。</p>
<p>互いの遊びのにているところやちがうところを考えながら、グループのへんしん遊びについて話し合おう。</p>		
<p>2. 【前半】 《話し合いグループ》 3～4人のグループで自分の考えた遊びについて話し合う。 《聞くグループ》 話し合いグループの話し合いを、めあてに沿って聞く。</p> <p>3. 《話し合いグループ》 自分の話し合いについて振り返り、カードに書く 《聞くグループ》 話し合いグループの話し合いについて振り返り、カードに書く。</p> <p>4. 【後半】 前半の話し合いグループと聞くグループの立場を交替する。 (自己評価・相互評価)</p> <p>5. 話し合いのよいところやアドバイス、感想を1対1で互いに伝える。</p>	<p>【前半】【後半】 《話し合いグループ》 ○相手の考えを認める言葉を返したり、分からないことは質問したり確認したりしながら、相手と自分の考えの違いを考えながら話し合う。 ●内容によっては、「へんしんカード」の活用を促す。 ●必要に応じて絵や動作なども取り入れて説明するように助言する。 《聞くグループ》 ●話し合いのめあてに沿って相手グループの話を聞くように助言する。 ●振り返りカードには自由記述の枠を設け、話し合いの内容的なものにも触れられるようにする。 ○相互評価は1対1を基本とし、話し合いでよかったことや感想などを互いに伝える</p>	<p>【前半】【後半】 《話し合いグループ》 ◎自分の考えた変身遊びについて、相手によく分かるように話したか ◎相手の考えと自分の考えを比べながら話し合っていたか。 ◎相手の話を受けて、自分の考えを話しているか。 ◎分からないことは尋ね互いの考えを理解しようとしているか。 ◎自分の話し合いについて、振り返りカードに記入したか。 《聞くグループ》 ◎相手グループの話し合いについて、めあてに沿って聞き、振り返りカードに記入したか。 ◎友達によいところや感想などを伝えたか。</p>
<p>次時学習内容</p> <p>・前時の自己評価や相互評価を生かし、話し合いの続きを行い、グループの変身遊びを決定する。</p>		

(5) 授業実践の成果と課題

〈成果〉

① 話題・題材の工夫

○児童にとって身近な話題
○児童の興味・関心のある話題

- ・自分なりの遊びの工夫を考え、自分なりの考えをもって進んで話し合いに参加することができた。
- ・楽しみながら話し合いを進めることができた。

○互いの考えの相違点や考えが分かりやすい話題

- ・同じ種類の遊びでグループを作り、ルール工夫に着目することで、互いの考えを比較することができた。

○話し合ったことが生活に生きる話題

- ・学級活動と関連させ、話し合った変身遊びを学級お楽しみ会で行うことで、話し合う目的や見通しの明らかな活動となった。また、「話し合っただけよかった」という満足感も得られた。

② 学習活動の工夫

○学習の導入段階におけるサンプルやビデオテープの活用

- ・話し合いのめあてを具体的な姿としてとらえやすかった。この段階で考えためあてがその後の話し合いの自己評価や相互評価に生きた。

○小グループでの話し合い

- ・一人一人が自分の考えを話したり、相手の話を受け止めたりすることで、話し合いの基礎基本を身に付けることができた。また、話し合いの参加意識も高まった。

③ 評価の工夫

○振り返りカード
○評価の観点

- ・学習の導入段階で話し合いのめあてをつくり、評価の観点としたことで、評価の意識が高まった。
- ・自己評価では、自分なりのめあてを評価項目に追加する欄を設けることで、自分のめあてを意識できるようにした。
- ・評価項目のほかに自由記述の枠を設けたことで、話し合いの成果や楽しさなど、内容面や関心・意欲・態度面にも目を向けた評価ができた。

○相互評価の方法

- ・1対1で相互評価をする相手を決めることで、相手の話し合いの様子をよく見ていた。
- ・《話し合いグループ》と《聞くグループ》を分け、話し合いをしているグループとそれを評価するグループを別にすることで、評価の観点により気を付けて相互評価することができた。

〈課題〉

- 児童にとって話し合う必然性のある話題・題材の開発と単元構成の工夫
- 視聴覚機器の効果的な活用
- メモの書き方やその活用の仕方についての指導
- 学習のめあてにそった評価項目の吟味
- 評価計画の作成

第4学年

(1) 単元名 4の2ネットワーク新聞を作ろう [基礎・基本(5)(6)(7)(8)(15)]

(2) 研究主題と単元とのかかわり

転校した友達の手紙を使っての新聞作りは、話し合う目的も明確であり、意欲をもって取り組める話題である。手紙から新聞に載せたい内容を出し合い、自分たちの作りたい新聞に合うように記事を選択する活動を設定した。この話し合いから、友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、適切な言葉を使って自分の考えを明らかにしながら付け加えて話すなど、話し合いの基礎・基本を身に付けることができると考えた。

(3) 学習指導計画の概要 (本時4 / 8時)

時	主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎ 評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 転校した友達の手紙を読んで、感想を交流する。 転校した友達と交流する方法を考える。 ネットワーク新聞を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ●友達がどんなふう成長しているか伝え合うという目的を知らせ、意欲を高めるようにする。 	◎新聞づくりの目的をつかめたか。
2	<ul style="list-style-type: none"> どうい新聞にするか話し合う。 友達のどんなことが知りたいかグループで話し合い、質問等をまとめる。 話し合いについて振り返り、カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合いのめあてを提示して学習活動に目的をもつようにする。 ○互いの思いの共通点や相違点を考えながら聞くこと。 ○いろいろな考えを大まかに分類すること。 	◎進んで話し合いに参加しようとしたか。 ◎話し合いのめあてに沿って話し合うことができたか。
3	<ul style="list-style-type: none"> 前時に話し合ったことを基にして、転校した友達に手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●質問状にならないよう、自分たちの生活の変化も知らせる手紙を書くように助言する。 	◎前時に話し合ったことを基にして、手紙を書くことができたか。
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> 返信された手紙を読んで感想を交流する。 記事にしたい内容について話し合う。 話し合いについて振り返り、カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合いのめあてを提示し学習に目的をもつようにする。 ○互いの思いの共通点や相違点を考えながら話し合い、話をまとめていくこと。 	◎進んで話し合いに参加しようとしたか。 ◎話し合いのめあてに沿って話し合うことができたか。
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いながら、新聞作りをする。(グループで1枚) 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手、目的を意識して言葉を選び、伝えたいことがはっきりとした新聞を作成すること 	◎話し合いを生かし、自分の思いが表れた新聞を作成することができたか。
8	<ul style="list-style-type: none"> 作成した新聞を印刷・発行し、新聞を読み合う。 転校した友達へ発送する 	<ul style="list-style-type: none"> ○制作者の思いを受け止めて、転校した友達のことを思いながら最後まで読むこと 	◎新聞から制作者の思いを読み取ることができたか。

(4) 本時の学習

- ①目標
- ・新聞にまとめるために、進んで話し合いに参加する。
 - ・互いの思いや考えの共通点や相違点を考えながら話し合い、記事にしたい内容をまとめていく。

②展開

前時の学習内容		
<p>・転校した友達について知りたいことをグループで話し合い、友達に手紙を書く。</p>		
主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎評価
1 本時のめあてを確認し学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の見通しや話し合いのめあてを書いた掲示物を活用する。 ●以前の振り返りカードの反省を想起させて、本時の話し合いに生かすようにする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 転校した友達からの手紙を読んで、新聞に載せる記事を決めよう。 </div>		
2 返信された手紙を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ●手紙の内容で気になるところは線を引くように助言する。 	◎感想を話すことができたか。
3 手紙を読んで感想を交流し、他の友達に知らせたい記事を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と自分を思いを比べながら聞き、付け加えて話すこと。 ●話し合いがうまく進まない場合は、話し合いの手引きを参考にしよう助言する。 	◎友達の考えに対する自分の考えを話すことができたか。
4 カードに記事にしたいことを書き、話し合いボードを使って新聞に載せる記事を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの共通点や相違点を考えながら話し合い、話をまとめていくこと。 ●記事になりそうな項目をカードに書き出しながら、検討するように助言する。 	◎賛成や反対の意見が話せたか。
5 話し合いを振り返り、カードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてを意識して、自己評価・相互評価をすること。 ●話し合いを振り返り、評価基準に合わせて評価するように助言する。 	◎一人の考えでなく、グループでのまとめができたか。
◎話し合いのめあてに沿って話し合うことができたか。		
次時の学習内容		
<p>・新聞の内容、レイアウト、見出し、原稿担当を話し合い、新聞づくりを行う。</p>		

(5) 授業実践の成果と課題

<成果>

① 話題・題材の工夫

- ・転校した友達のがんばっている様子や周囲の環境を知り、気付いたことを広げたり、新聞にするためにまとめたりできる話題であった。
- ・転校した友達の様子と自分たちの様子を比べることにより、自分たちの成長を振り返ることができた。

② 話し合う活動の工夫

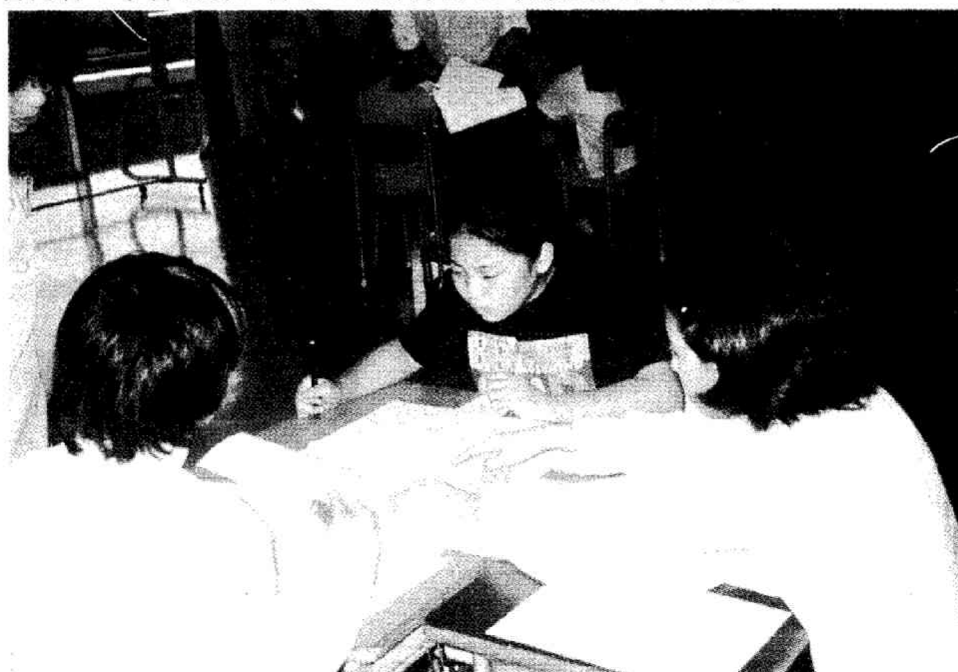
- ・話し合いボード（画板ぐらいの大きさのボードに、大きめの付箋を付けていく）を使い、話し合ったことや思考を視覚的に表すことにより、話し合いを整理したり、まとめたり、新しい課題をみつけたりすることができた。
- ・広げる、まとめる話し合いの手引き（話型）を参考にして、話題につなげて話そう、積極的にかかわりながら聞こうとする仕方を身に付けた。
- ・モデルビデオ（小グループでの話し合いビデオ）を視聴して、手引きの生かし方や話題をつなげたり、広げたりすることが理解できた。

③ 評価の工夫

- ・次時のめあてを決めることに、自己評価を有効に生かすことができた。
- ・手引きやモデルビデオから自分の課題に気付いて、自分なりのめあてをもつことができた。

<課題>

- 自己評価における客観的な基準の必要性について検討していくとともに、自己評価の項目について一層吟味していく。
- 支援計画を基にした計画的な教師の支援や評価を工夫する。
- 学習内容や学習活動に合わせた弾力的な時間配分を考える。



— 話し合いボードをつかった話し合い —

第5学年

(1) 単元名 考えよう！わたしたちの町のバリアフリー〔基礎・基本、◆◆◆◆◆〕

(2) 研究主題と単元とのかかわり

本単元では、児童が「研究グループ」を組み、グループ毎に選んだ地域の施設や場所の「バリアフリー」について調べ、誰もが暮らしやすい社会を目指そうとする人々の願いに気付いたり、バリアフリーの現状の改善等について提案できるように話し合ったりする。

単元の最後では、自分たちの考えた「わたしたちの町のバリアフリー」について、グループごとの提案を、市役所の福祉課の方に聞いてもらう活動を設定した。これにより、必然性のある、目的をもった話し合いができる。

また、道徳の学習としてアイマスクや車椅子体験、設備や施設を調べる取材等の活動を行った。これらの体験や取材の裏付けにより、児童が自分の考えをもちやすいように、また、自分の意見に自信がもてるようにと考えた。そして、話し合いの場を多く取り入れ、毎回自分たちの話し合いを振り返らせることにより、計画的な話し合いの力が付くようにした。

(3) 学習指導計画の概要（本時3／5）

* 校内でのアイマスク体験、老人福祉施設での車椅子体験を、事前に道徳授業で行う。

時	主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎ 評価
1	・研究グループで調べた内容や提案事項を話し合い、発表メモを作る。	○事実と意見を分けて、発表メモを作ること。 (19ページ資料参照)	◎組み立てを考えてメモを作れたか。 ◎進んで話し合えたか
2	・メモを基に、研究グループ内で発表練習をする。	●どうしたらよい発表になるか、という視点から助言する。	◎内容が伝わるように工夫して、練習に取り組めたか。
3	・発表練習グループ(違う場所や施設を調べた者)で発表し合い、意見交換する。 ・研究グループに戻り、発表内容を再度話し合う。	○相手の言いたいことを考えながら話の内容を聞くこと。 ○出された意見を基に、発表の内容が効果的に伝わるよう、話し合うこと。	◎話し手の意見を聞き話題に沿って質問したり、意見を述べたりすることができたか。
4	・本発表に向けて、内容や組み立てを話し合い、発表の練習をする。	○前時の話し合いを基に、新しくメモを作ること。	◎効果的な組み立てを考えてメモを作ることができたか。
5	・市役所の方に来てもらい、自分たちの調べたことやバリアフリーについての提案を聞いてもらう。	○目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ●自信をもって発表するように励ます。	◎自分たちの考えや意図が伝わるよう、工夫して話すことができたか。

(4) 本時の学習

- ① 目標
- ・他のグループに、自分たちの調べたことや考えたことを、話の組み立て等を工夫しながら伝える。
 - ・相手が伝えようとしていることを考えながら話を聞く。
 - ・自分たちの考えたことが、より明確に伝わるように、発表の内容について話し合いを深める。
- ② 展開

前時の学習内容 ・メモを基に、内容を効果的に伝えるための工夫を考えながら、発表の練習をした。		
主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎評価
1 本時のめあてを確認する。	○発表や話し合いのめあてを十分に意識すること。	◎見通しをもって学習に臨もうとしているか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 考えよう！わたしたちの町のバリアフリー </div>		
2 発表練習グループになって、自分たちが調べたことを発表し合う。	○メモを基に話の組み立て等を工夫して発表すること。 ○相手が伝えようとしていることを考え、メモを取りながら話を聞くこと。	◎メモを基に自分の意図が伝わるように話せたか。 ◎相手の話を、メモを取りながら、聞くことができたか。
3 発表に対して質問や意見の交流をする。 ・わかりにくいところ ・より詳しくするとよいところ ・付け足し	●意見の交流が進まないグループには指導・助言をする。	◎メモを基に、自分の意図が伝わるように話せたか。 ◎相手の話を、メモを取りながら聴くことができたか。
4 研究グループに戻り練習グループで出された意見を基に、よりよい発表にするための話し合いをする	○根拠を明らかにしながら、話すこと。 ○話題からそれないように話し合うこと。 ○前の人の意見を受けて話すこと。	◎進んで話し合いに参加しているか。
5 本時のまとめをする	○話し合いめあてに沿って振り返ること(19ページ資料参照)	◎話し合いのめあてに沿ってに沿って振り返り、カードに記入できたか。
次時の学習内容 ・本発表に向けて、本時の話し合いを基に内容を修正し、発表の練習をする。		

(5) 授業実践の成果と課題

〈成果〉

①話題題材の工夫

○児童にとってやや難しいかと思われた課題であったが、自分たちで調べる活動を通して、自ら進んで多くのことを見つけようとする態度が身に付いた。調べたことは、そのまま人に伝えたい内容へと変わっていき、伝えるための内容をグループで話し合い、決めることができた。

②話し合う学習活動の工夫

○相手意識・目的意識をもたせるために市役所の人に来てもらうことが、児童の話し合う意欲を高める上で有効であった。

○付箋紙を使った発表メモや聞き取りメモを活用することにより、メモを基に話を膨らませて話す力や話題に沿って話を聞き取る力を身に付けることができた。

③評価の工夫

○話し合いのめあてを記入して学習に臨んだが、回を重ねるうちに児童が自分の実態に合っためあてを記入できるようになっていった。

○支援計画（下図参照）に基づいた支援が効果的であった。

	児童館・図書館グループ	病院グループ
児童の実態	<p>A 話し合おうとする意欲があり、話し合いを進めることができる。</p> <p>B 進んで意見を言うことは少ないが課題に沿って考えようとする。</p> <p>C 話し合いに集中できると、大変意欲的に話すことができる。</p> <p>D 求められれば意見を言える。進んで発言させたい。</p>	<p>E 話し合おうとする意欲がある。話題に集中させたい。</p> <p>F 提案内容についての話し合いでは意欲的であった。集中力を持続することが課題。</p> <p>G 自分の意見をもっているのに、他の児童に対しても積極的に発言させたい。</p> <p>H 説得力を出すために、理由や根拠を付け加えるようにさせたい。</p>
支援	<p>中心になって話し合いを進めることができる児童がいるので、他の児童にも意見を出してもらうような言葉かけや進め方を工夫するように助言する。</p>	<p>発表の練習については、よく協力して意見を聞き合い、話し合いを進めていた。全員が発言できるので、話題に沿った話し合いやつなげる言葉かけができるように助言する。</p>

〈課題〉

○聞く時の観点の示し方を具体的にし、内容に目を向けるような工夫をする。

(例)「よいところ」「話の中身で感心したところ」「よいと思ったアイディア」等

○自己評価とともに、「自分たちの話し合いがどうだったか。」などのグループとしての評価(相互評価)を充実する。

(6) 資料

「考えよう！わたしたちの町のバリアフリー」
発表メモ
へ名前前

話題
本六月館のバリアフリー

体育館の中
(二階)

体育館の中
(二階)

スロープのある場所

自分でできる
ボランティア

感
相
心

レストランの中に車イス
の人でも使える手洗い所
がある

エレベーターのフロアに
点字がある

いろいろな所にある

車イスに乗っている人を
見かけたが助ける。
ぼん金をする

体を目を調べていろいろ
なことがわがた

しょう音者用のトイレ
のドアが重すぎる

「考えよう！わたしたちの町のバリアフリー」

話し合い振り返りカード へ名前前

めあて
前の人話につなげて話す

話し合いを終えて
・前の人話になるべくつなげて話せてよかった。
・自分の発表の意見をみんなが話してくれてよかった。
・「くわしくていい」とか「よいところを聞いた」として、
発表の内容が少しだけどふくらんでよかった。

話題からそれずに話すこと	○
話し手の言いたいことを考えながら聞くこと	○
前の人話を受けて話し合うこと	○

できた○ もう少し△

次の話し合いでがんばりたいこと
もう少し話し合いの内容をふくらませて
話し合いをした。

第6学年

- (1) 単元名 五日市からとびだして、世界を広げよう [基礎・基本◇◇◇◇◇]
～語り合おう！夏休みのとっておきの体験を～

(2) 研究主題と単元とのかかわり

高学年の話し合う学習活動における話題は、児童にとって興味・関心がある、必然性があるだけでなく、話し合う内容が「価値あるもの」ということも大切なことである。本単元は、必ずしも結論というものではないが、話したい聞きたいと思うものであり、自分の考えを広げたり深めたりできるものである。

このような話題の場合「スピーチ形式」にすることが多い。しかし、気楽に自由な雰囲気の中で、話すこと聞くことを楽しみ、知的好奇心を広げていくことをめざし、「フリートーキング」(*)を選択した。

そこで、「フリートーキング」による話し合いの進め方を知るために、フリートーキングの台本をもとにロールプレイをしてイメージをつかませた。また、「話し合いの手引き」(資料2)によって、話題がそれた時や停滞した時、方向を転換したい時などの発言について指導した。

これらの手立てをとることによって、話し合う学習活動の充実を図った。

(3) 学習指導計画の概要 (本時5/6)

	主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎評価
第一次 ②	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目的を知り、学習計画を立てる。 フリートーキングのロールプレイをする。 話し合いを進めていく言葉について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の目的と方法を知らせ学習計画を立てること。 ●フリートーキングのイメージをつかませる。 ○「話し合いの手引き」を使って話し合いを進行させる発言の仕方をつかむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習の見通しがもてたか。 ◎フリートーキングのやり方のイメージをつかめたか。
第二次 ④	<ul style="list-style-type: none"> フリートーキングの準備をする。 「話したいこと」「話題にしたいこと」を付箋紙に書き、メモボードに貼る。 フリートーキングをする。(相手をかえて2回行う) 	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合いの話題をもとに、班を決定しておく。 ○話題にさせたいポイントを箇条書きにまとめること。 ●同じ班のメンバーの話題を掲示し、質問したいことなどもメモに付け加えるよう助言する。 ●関係のある話題を出し、話し合いが広がるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎話し合いを進めるために必要なメモができたか。 ◎話したい内容が伝わるように話せたか。 ◎話題をつなげるように話し合うことができたか。 ◎次の話し合う学習に生かせるような評価ができたか。

※ 夏休みの体験を語り合うような場合は、「座談会(テーブルトーク)」という用語を使うことが多いが、今回の学習を基礎として次の話し合いに発展させていく意図があることと、新学習指導要領の高学年の目指している内容に照らし合わせ、話し合いに方向性のある「フリートーキング」としてとらえていくこととした。

(4) 本時の学習

- ① 目標 ・話し合うことで友達の体験を知る面白さを味わう。
 ・話題をつなげるように話し合うことができる。
- ② 展開

前時の学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> 誰とどんな話題でフリートーキングをするのかを知る。(4人を基本に・似た体験の班で) フリートーキングの準備をするために、話したいことや話題にしたいことを付箋紙に箇条書きにして、「フリートーキングメモ(資料3)」に貼る。 		
主な学習活動	○指導事項 ●教師の支援	◎ 評価
1 本時のめあてを確認し、学習の流れをつかむ。	○全員がフリートーキングを進める意識をもたせること。	
語り合おう！夏休みのとっておきの体験を		
2 班ごとにフリートーキングをする。 <ul style="list-style-type: none"> まず自己紹介を兼ねて話す内容を伝え合う。 友達に分かりやすいように話す。話題を投げかける。 話題をつなげるように友達の話に質問したり、同意したりする。 	○話題をつなげて話し合うこと。 ●付箋紙は話したり話題になったりしたら下の段に貼りかえるように指示する。 ●話し始められない班にはきっかけを与える。 ●関係のある話題を出して話し合いが広がるようにする。 ●早く終わってしまった班には、メモをもとに話題を考えさせ、新たな視点を示す。	◎支援計画(資料1)をもとに必要に応じて助言する。 ◎相手に伝わるように分かりやすく話しているか。 ◎話題をつなげるように問いかけたり、質問したりしているか。
3 話し合いの自己評価・相互評価をする。 <ul style="list-style-type: none"> 評価カード(資料4)を書いたりしながら必要なことは伝え合い、評価し合う。 		◎話し合うことで自分の体験と友達の体験を比べ、各自の体験についての考えが理解できたか。 ◎話し合いの仕方を体験の中から身に付けようとしていたか。また、次の話し合いに生かそうとしていたか。
4 各班で話し合ったことや反省点を全体に伝える。	○よかった点を全員に伝えること。	
次時の学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> フリートーキング2回目の準備をする。本時に書いた「評価カード」や経験を基に、次時に行う学年交流のためのフリートーキングメモを作り直す。 		

(5) 授業実践の成果と課題

〈成果〉

①話題・題材の工夫

- ・ 友達の経験談を聞いて自分の視野を広げる題材で、児童が話し合う活動を楽しみながら行うことができた。

②話し合う活動の工夫

- ・ 単元構成は児童にとってわかりやすかった。一回目のフリートーキングの後、次のフリートーキングに向けてのメモ作りの視点もはっきりしていた。
- ・ 「話をつなげること」「話題を広げること」を意識した話し合う活動であった。
- ・ 手引きを活用し、ロールプレイをしたことによって、フリートーキングのイメージ（話し合いの進め方）を児童がつかみやすかった。

③評価の工夫

- ・ 互いのよいところを認め合う評価の方法は有効だった。同じ土俵に立って、話し手・聞き手の両面で、話し合いながら行うことができた。
- ・ 支援計画を立てることで、話し合う活動や振り返る活動時に、全体や個に対して、適切な指導・助言ができた。

〈課題〉

- 話を深め新たに創り出す話し合う活動の題材について、さらに考えていく必要がある。
- 「話題にしたいこと」メモの内容の指導を工夫する。相手に伝えるべきことをしっかり伝えることや話がつながるような内容にすることの助言が大切である。
- 台本は有効だが、本時の活動と同じ設定内容のもの作成も考えていく。
- 評価カードでは、内容に目を向けさせていくことが大事である。聞き手の視点・意識を育てることも必要である。

(6) 資料

資料1 〈支援計画と授業記録〉合宿グループ① A (男子：地域剣友会の剣道合宿)
 B (男子：地域剣友会の剣道合宿)
 C (女子：地域クラブのバドミントン合宿)

【支援計画】	【授業記録】	
合宿グループ(3名) A：集中して話すことができる。 B：コーディネーターとしてつなげることができる。 C：話題提供ができる。	A 一つ聞きたいことがあるんだけど、バドミントンの練習はどうでしたか。 C 一日に、朝と午前中と…。 B それに付け加えるんですけど楽しくできましたか。 C 疲れたけど楽しかった。一日に午前中と午後あったから疲れた。	話題提供
合宿時のエピソードなど話題が豊富に出される。フリートーキングを楽しむことを期待。 ・ 今までの合宿と比べてどうか。 ・ どんな練習をするのか。	B A君は何か楽しいことがありましたか。 A ありました。自由時間に電話をかけまくったことです。 B 体育館が自由に使えるよかったですし、卓球もできた。 A 夜は何をしましたか。 C 夜は他の人の部屋へ行って、テレビを見たり話をしたりして遊んだ。 B それは同じですね。	話題を広げる 楽しいことに 関連して 同意

IV 研究の成果と課題

1 成果

(1) 話題・題材の工夫

児童にとって、話し合う必要感のある話題・題材とは、「身近な話題」、「体験を基に考えられる話題」、「適時性があり、話し合う価値のある話題」の3つであるにとらえ、それらの視点から単元開発を行った。この3つの視点を基に、学年や発達段階に応じて、生活に密着したものから、学校生活や地域、社会に目を向けたものへと発展させていくことにより、児童の話し合う意欲を引き出し、思いや考えを活発に交流する姿を促すことができた。

(2) 話し合う活動の工夫

話し合いに必要な基本的な技能を明確にし、系統的に配列して一覧表にまとめることにより、それぞれの技能を身に付けさせるための効果的な指導時期や順序、技能と話題との関連が明確になった。それらを基に、「理解し合う」「広げる」「まとめる」などの話し合いの機能を重視した話し合いの方法や形態を工夫し、モデルとなるビデオ視聴やロールプレイを行う活動などを意図的に単元に組み込むことで、効果的に技能を身に付けることができた。

(3) 評価の工夫

自己評価では、話し合いによって何が得られるのかという内容面と、その話し合いによってどんな力が身に付くのかといった技能面とを区別してめあてをもたせて振り返らせた。それにより、話し合い自体のよさや価値に気付かせていくことができた。また、自分たちの話し合いをビデオテープや録音テープによって振り返らせることにより、話し合いで大切なポイントに気付かせることができ、そのポイントを評価項目として意識し、次の活動へのめあてとして主体的に生かそうとする姿が見られた。これらの活動の工夫を通して、児童自らが自己評価をするための力を身に付ける手だてが明確になった。

相互評価では、話し合いの仕方を客観的に振り返るための場を設け、自分たちの話し合いの仕方を話題にして話し合ったり、アドバイザーからの助言を基にして話し合ったりすることにより、話し合いの仕方を効果的に振り返ることができるようになった。

また、学習後の評価だけではなく、学習の前や学習中にめあてを確認させたり、支援計画を基に教師が評価し、よかったことに気付かせたり広げたりすることにより、学習効果が上がり、さらに児童の学習への意欲が高まることが分かった。

2 課題

(1) 話題・題材の充実

児童が話し合いに必要感をいだくには、話題・題材が大きくかかわっている。教師の願いと児童の願いとのバランスを考え、児童の生活に根ざした単元をさらに開発する必要がある。

(2) 児童による評価の仕方や教師の支援の仕方の充実

児童が学習を振り返るためには、自己評価だけでなく児童同士による相互評価がとても重要である。自己評価に生かせる相互評価の方法や活動、教師の支援のタイミングや具体的な方法をさらに明らかにしていく必要がある。